

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 31 日作成)

委員会名	意味のデザイン小委員会	主 査 名：林 泰義
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会	委員長名：服部岑生
設 置 期 間	2000 年 4 月 ~ 2004 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<p>本小委員会の目的は、住民・行政・専門家参画のコミュニティデザインにおける意味作用の生成モデルを明らかにすることにある。意味のデザインは、建築・環境づくりにおいて、機能レベルをこえて 生活づくり 空間造形 意識づくり の3レベルを包括的に扱うことによって、新しい時代の計画学の地平をひらく。意味のデザインの最も重要なコンセプトは、「純粹経験」(自発的で質的に連続的な変化)である。コミュニティデザインの現場にたちあられる意味を具体的にすくいあげ、研究と実践の橋渡しを行うことに、社会的・学術的意義がある。活動計画を次に記す。2000 年度：コミュニティデザイン実践状況把握、2001 年度：建築・環境タイプ別ケーススタディ、2002 年度：意味のデザインの方法素描、2003 年度：全体の集約と執筆。</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>林泰義・主査(計画技術研究所) 森永良丙・幹事(千葉大学) 秋元馨(横浜国立大学) 伊藤雅春(大久手計画工房) 乾亨(立命館大学) 延藤安弘(NPO まちの縁側育み隊) 北原啓司(弘前大学) 倉原宗孝(北海道工業大学) 福田由美子(広島工業大学) 連健夫(連健夫建築研究室) 横山俊祐(熊本大学) 横山ゆりか(東京大学)</p>	
設置 WG (WG 名:目的)	なし。	
2003 年度予算	229,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	<p>本小委員会編著の書籍のコンセプトを中心に以下での活動が行われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JIA アーキテクト・ガーデン、デザイン部会主催パネルディスカッション：委員のプレゼンテーションとゲストを迎えての議論、東京、2004年2月。 ・ 沖縄建築士会主宰まちづくりセミナー：延藤、連委員がパネリストとして参加、沖縄、2003年11月。
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>本小委員会の活動成果は、書籍『対話による建築・まち育て? 参加と意味のデザイン』(日本建築学会意味のデザイン小委員会編著、学芸出版社、全 272 頁、2003 年 4 月)としてまとめられた。建築・まちづくりに携わる学生、専門家あるいはひろく市民に対しても、主旨が届くよう留意されている。</p> <p>当該書籍のコンテンツを以下に記す。</p> <p>『対話による建築・まち育て? 参加と意味のデザイン』目次構成 序章 『対話による建築・まち育て? 参加と意味のデザイン』の活用にあたって (延藤安弘)</p> <p>第 1 部 新しい公共性を拓く</p> <p>第 1 章 コミュニティが生む『新しい公共』(林泰義)</p> <p>第 2 章 中間的公共性としての地域コミュニティ 『地域のことは地域で決める』とはどういうことか(乾亨)</p> <p>第 3 章 『私』からほとぼしる公共性 『参加』による意味の変換(北原啓司)</p> <p>第 2 部 あたたかい市民性と共振する</p> <p>第 4 章 『まちの記憶』を研にすること(福田由美子)</p> <p>第 5 章 成果主義におちいらない脱力的まちづくり(倉原宗孝)</p> <p>第 6 章 共に生きる意思の発露をつつむ環境計画へ 目的論的計画学からこぼれた世界(横山ゆりか)</p> <p>第 3 部 ひらかれた専門性を育む</p> <p>第 7 章 トラブルをエネルギーにする 対立を対話に変える物語性のデザイン(延藤安弘)</p> <p>第 8 章 参加のデザインによる設計方法論(伊藤雅春)</p> <p>第 9 章 人間と環境が一体となった生活空間計画(森永良丙)</p> <p>第 10 章 物語とプロセスの建築デザイン(連健夫)</p> <p>第 11 章 かたちの意味とコンテキスト(秋元馨)</p> <p>索引 あとがき</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>本小委員会の活動は、前身の参加と創発の小委員会の活動を受けて、活動計画がたてられ、書籍として上梓できたことは一定の目標を達成したと考える。</p>
その他評価すべき事項	